

研究種目：基盤研究（A）
研究期間：2007～2010年度
課題番号：19202015
研究課題名（和文） 多言語話しことばコーパスと学習者言語コーパスに
基づく言語運用の研究と教育への応用
研究課題名（英文） Studies of language use based on multi-lingual and learner corpora
and their application to teaching
研究代表者
川口裕司（KAWAGUCHI Yuji）
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：20204703

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：言語コーパス、学習者言語、話し言葉コーパス、言語学、応用言語学

1. 研究計画の概要

本研究プロジェクトの主たる目的は、①「多言語による話し言葉コーパス」と「学習者言語コーパス」という、2つの言語コーパスを構築すること、②コーパスの言語分析を行い、研究成果の言語教育への応用可能性を検討すること、である。このため21世紀COEプログラムにおいて平成16年度～18年度に構築された話しことばコーパスをさらに拡充し、海外の高等研究機関との協力関係を継続するとともに、教員と大学院生によるフィールド録音を行う。また、タスク中心の e-learning 教材に基づいた学習者言語コーパス構築のためのプログラムを開発し、さらに構築した学習者言語コーパスの分析を実施する。

2. 研究の進捗状況

本研究全体のプロセスは4つの Step からなる。Step1では、現地でのフィールド調査を通じて話し言葉の録音を行い、あるいはテキストを電子化する。また e-learning 講義等の中で学生にタスクを与え作文や録音を行う。Step2では、臨地録音データの文字化を行い電子化する。学習者タスクの回答はサーバーに自動的に蓄積されコーパス化される。Step3では多言語による話しことばコーパスの言語分析を行い、話しことばの言語運用の実態とその特徴を研究する。また学習者言語コーパスのデータ解析を行う。最後の Step4で、言語運用の研究と学習者言語データの分析成果をどのようにして言語教育に応用できるかを考究する。平成22年度は主に Step3～Step4を中心に研究が行われる。

3. 現在までの達成度

話し言葉コーパスは主にフランス語、スペイン語、トルコ語、中国語で構築されており、いずれも当

初の予想を超える規模のコーパスができています。フランス語、スペイン語については品詞タグも付与する予定である。ラオス語とカンボジア語では主にテキストの電子化が順調に行われており、テキスト検索の方法が検討されてきた。学習者言語コーパスは英語、日本語、フランス語、ポルトガル語について構築されつつあり、そのための録音機能を含む e-learning と CMS が整えられ、実際に日本語とフランス語については稼働し始めている。

4. 今後の研究の推進方策

言語コーパス（話し言葉、テキスト、学習者言語）の構築は、プロジェクト終了時まで可能な限り継続する。最終年度にあたる今年度に、学習者言語研究に関する国際シンポジウムを開催し、これまでの研究の蓄積を広く発信する。また通言語的に分析が可能なテーマを設定し、グループ研究を行う予定である。これらの成果は何らかの形で公開したいと考える。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

Ayano Suzuki, Tae Umino, Corpus-based analysis of lexical errors of advanced Japanese learners, *Corpus-Based Perspectives in Linguistics*, 2008, 391-409.

Yuji Kawaguchi, Particules négatives du français: ne, pas, point, mie –Un aperçu historique–, *Le français d'un continent à l'autre. Mélanges offerts à Yves Charles Morin*, Presses de l'Université Laval, 2009, 193-210.

望月 圭子, 日本語・中国語の自動詞構文の対照研究—‘-e-’自動詞と‘-ar-’自動詞との対照をめぐって—, 漢日理論語言学研究, 2009, 277—284.

Tae Umino, Exploiting the potentials of multimedia for foreign language education: with a focus on Japanese language materials, 台大日本語文研究, 2009, 13-32

上田 広美, クメール語の動詞句における/baan/について, 慶應義塾大学言語文化研究所紀要, 41, 2010, 149-164

〔学会発表〕(計5件)

楊嘉貞、海野 多枝, e-ラーニングによる日本語学習：台湾の大学における初級学習者への意識調査, 第8回日本語教育国際研究大会, 2009年7月14日, アデレード大学

Isao Ueda and Hiroko Saito, The phonology of nucleus misplacement by Japanese learners of English, The 12th meeting of the International Clinical Phonetics and Linguistics Association, 2008年6月, the International Clinical Phonetics and Linguistics Association

Hiroko Saito, Spelling-to-sound or sound-to-spelling? Errors found among Japanese learners of English, Phonetic Teaching and Learning Conference, 2009年8月7日, University College London

Isabelle Racine, Sylvain Detey, Françoise Zay, Yuji Kawaguchi, Le projet «Interphonologie du français contemporain» : réflexions méthodologiques et premières données d'apprenants hispanophones et japonophones, «Langue française en contexte», colloque AFLS 2009, 2009年9月4日, Université de Neuchâtel

望月 圭子, 申 亜敏, 漢日語的主語指向型結果複合動詞, 第九屆世界華語文教學研討會, 2009年12月26日, 台北市

〔図書〕(計5件)

Yuji Kawaguchi et al., Corpus-Based Perspectives in Linguistics, John Benjamins, 2008, 439p.

海野多枝, 他, コミュニケーション能力育成再考—ヘンリー・ウィドゥソンと日本の応用言語学・言語教育, ひつじ書房, 2008, 253p.

斎藤弘子, 他, スペシャリストによる英語教育の理論と応用, 松柏社, 2008, 253p.

小野尚之, 申 亜敏, 望月 圭子他, 結果構文のタイプロジー, ひつじ書房, 2009, 487p.

Yuji Kawaguchi, et al., Corpus Analysis and Variation in Linguistics, John Benjamins, 2009, 399p.